

宮城大学 後援会報

Vol.37

発行
平成 24 年 3 月 31 日

発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑 1-1
宮城大学後援会
TEL 022 (377) 8381

編集
宮城大学後援会事務局

平成23年度卒業式

470人、震災の経験を胸に

学び舎を築立つ



早春の穏やかな天気にも恵まれた3月16日、2年ぶりとなる卒業式が宮城大学大和キャンパス講堂で行われました。

この日卒業を迎えたのは、学部生433人（看護学部96人、事業構想学部201人、食産業学部136人）と、大学院生37人（看護研究科7人、事業構想研究科19人、食産



▲学生生活最後の記念写真に納まる卒業生（事業構想学部）＝3月16日、中央階段

で、式では東日本大震災の犠牲者を悼み全員で黙とうを捧げた後、西垣克学長から卒業証書・学位記が授与されました。西垣学長は式辞で「震災の経験を胸に秘め、語り部や防災リーダーとして活躍し、未来を切り開いていく人材になっていただくことを期待します。これから

多くの苦難や試練に直面する人生になるかも知れませんが、人間らしい社会の創設に立ち向かっていただきたい」と述べ、卒業生を祝福しました。

卒業生を代表して事業構想学部の庄子大智さんが「震災を乗り越えられたことを力とし、宮城大の卒業生として社会に貢献し、震災復興を支援してください」との恩返しを始めたことばを述べました。

式には学生のほか保護者、来賓教職員など多数参加し、式典を見守りました。

大学の理念を思う

保護者として宮城大学との関わりを今一度振り返ってみますと、後援会の理事をさせて頂いたことが大変大きく、年に何度かの理事会に出席するためにキャンパスに赴いていたことが、懐かしく思い出されます。

当初は、積極的に参加していただけては、理事会での議論についていけない状態で、お客様の存在を貫いており、なぜか3年目から副会長を仰せつかり、宮城大学とは切っても切れないご縁（絆）で結ばれてしまいました。



▲庄子さんはピアノ教師の傍ら、長年、子供たちにボランティアで絵本の読み聞かせをしています。

庄子やよい（卒業生保護者）



今回は卒業生のお母様、庄子さんにご登壇いただきました。庄子さんはお嬢さんが看護学部を卒業する平成21年度までの4年間、本会の理事、副会長を務められました。今、宮城大を卒業し、社会人として立派に成長されたお嬢さんへの思いをお寄せいただきました。

私が副会長としての任務を果たせるのか、かなり疑問でしたが、何の任務も果たすことなく2年間を終えようとしていたところ、最後の最後、娘の卒業式の謝恩会で、後援会を代表してあいさつをすることになってしまったのです。その時に、改めて宮城大学の理念に目をむけてみました。

「ホスピタリティ精神とアメニティ感覚に溢れる人間と社会の形成」ホスピタリティとは、人への温かい思いやり。アメニティとは、快い生活環境。この二つの言葉は、健全な社会を形

娘はおかげさまで看護学部卒業後、仙台医療センター附属の看護助産学校を経て、現在、相模原病院に勤務しております。温かい思いやりをもって快い環境を提供し、患者さんに喜んで頂ける看護師になって欲しいと思っておりますが、様々な困難にぶつかった時に、是非、理念を思い起こして、頼もしい人間になって欲しいと願っております。

西垣克学長が宮城大学長に就任して1年。これからの宮城大学について沖野後援会長がお話を伺いました。

震災を乗り越えて

沖野 学長就任直前に東北地方が未曾有の大地震に襲われ、大変御苦労された1年だったと思いますが、振り返ってみていかがですか。

西垣 当日は静岡にいて、つまり東海から東北、しかも宮城は大変な状況だと知り、急ぎ宮城に赴くことになりました。大学では職員が非常によく動いてくれました。被害状況と学生の安否確認をしましたが、残念ながら学生1人が津波の犠牲になったことを知りました。

沖野 そのまま4月の就任を迎えられたわけですね。

西垣 4月には再び大きな余震もありましたので着任の感を味わう暇はなかったですね。5月授業再開を目標に設定しましたが、通常カリキュラムの整備に加え、震災後における大学のハード・ソフト両面での立て直しと、問題は山積していました。

沖野 でも目標どおり5月に授業を再開されましたね。

西垣 これは職員の働きが大きかったです。入学式も半年遅れの9月に行い、卒業式は1年遅れの3月に実施を決めました。

沖野 おかげさまで本会も1カ月遅れで総会を実施し、新年度をスタートさせることができました。また今年度は通常の行事の他にも震災復興を支援する行事がいろいろありましたね。後援会でもいくつか支援させていただきましたが。

西垣 そうですね。中でも、これはメモリアルになります。私は学生が犠牲になったことをとても重く受け止めよう対応するかをいろいろ考えていました。それで、東海大学と静岡県立大学の協力を得て、河津桜の植樹を決めたのですが、志半ばで亡くなった学生が、千年桜となってこの



▲西垣克学長

キャンパスを見守り続けていてくれたらと思っただけです。
沖野 その一方で、高校訪問にも学長

自ら出向かれたと伺いました。

西垣 大学は学生によって成り立っています。実際、県内をはじめ東北の高校をいくつか訪問して、大学が望む学生像と、高校が思い描いているものと、必ずしも一致していないということがわかりました。これは情報の提供という点で、大学にも責任があることです。早急に改善しなければと思います。

沖野 震災対応、大学運営と随分ハードなスケジュールでしたね。

西垣 さすがにその頃、3月から蓄積された疲労がピークとなり体調を崩しました。今はすっかり元気ですけど(笑)。

後援会活動へ期待すること

沖野 後援会も今年度の事業をほぼ予定通り進めることができました。本会の活動をどのように御覧になりましたか。

西垣 大学と志が一致している点で良きパートナーと評価していますが、支援も時々不具合を生

じることもあります。たとえば、サークルがうまく活動していないだけば有効的な支援とは言えません。いい活動につながるまで根をはって深く見ていってほしいです。

沖野 なるほど、おっしゃるとおりですね。

西垣 後援会主催の乙武さんの講演会は良かったですね。今後の講師は有名人というだけでなく、世の中のパイオニア的存在で日本を代表するような方か、東北の知的な人材を発掘していただくのもいいですね。



沖野 ご期待に沿えるよう頑張ります。ところで宮城大は法人化されてまだ日が浅いのですが、今後大学を運営する上で、どのような考えをお持ちですか。

独自性のある大学を目指す

西垣 「さすがに宮城大学」と言われるぐらいの独自性を出さなければなりません。それで、就職活動ゼロの大学を目指そうと考えています。
沖野 いいですね……?

西垣 学生が人生設計をするためには、知的基盤を作る必要があります。そのため共通教育の整備を検討していますが、具体的なものとして、グローバルインターンシップ(*1)の導入や学生ベンチャー(*2)の育成、公務員講座の開設は、すでに新年度からの実施を決めました。

沖野 それがやがて、就活ゼロに結びつくというわけですね。なるほどそれは大学の核となり

「1年遅れ」の卒業式

晴れて人生の区切りを迎える

東日本震災で昨年中止となった平成22年度卒業式が、1年遅れの平成24年3月17日、宮城大学講堂で行われました。



▲卒業生代表の答辞

大学の呼び掛けにこの日参加したのは、昨年の卒業生467人中3分の2に当たる311人。就職、進学とそれぞれの道を歩み始めていた多くの卒業生が、晴れ着姿で再びキャンパスに集いました。式では西垣克学長から代表者7人に卒業証書が手渡された後、来賓として出席した当時学長だった馬渡尚憲前学長が「混乱と不安の中、友とあいさつを交わすこともなく、社会へ送り出すことになってしまった皆さんのことが、とても心残りでした。思いがけず、今こうして、立派な社会人となったみなさんに再会し、改めて送り出す機会を得たことを本当にうれしく思います。これからも建学の精神を忘れず頑張っていたください」とあいさつし、安堵の表情を浮かべました。



▲恩師や友との再会に笑顔があふれる

卒業生を代表して看護学部卒業生加藤彩花さんが「心残りだった卒業式を行っていただけに深く感謝します」と述べました。

ある力 学創り

学長・会長対談

「Rio+20 を地球再出発の元年にしよう」

事業構想学部教授 博士(工学) 風見正三

今年、1992年の「地球サミット」(環境と開発に関する国際連合会議)から20年目を迎え、リオ・デ・ジャネイロで再び開催されることから、「Rio+20」と呼ばれています。

2012年3月1日、このRio+20に向けた「アースダイアログ in MYU」というイベントが宮城大学で開催されました。主催したアースディ仙台プロジェクトは、宮城大学事業構想学部事業計画学科の小嶋景太君(現在4年生)が代表、私が顧問を務める学生主体の環境団体で、世界的なイベントである「Earth day」を東北に広めていくことを目的としています。そして、21世紀を生きる若い世代が持続可能なライフスタイルを実現していくための様々なプロジェクトを実践していくことを目指しています。3月1日のアースダイアログは、その活動のひとつで、C.W.ニコル・アフアの森財団の代表を務める環境活動家作家のC.W.ニコル氏を招き基調講演を行った後、NPO法人森は海の恋人 副理事長 畠山信さんを加えたパネルディスカッションを行いました。

C.W.ニコル・アフアの森財団は、長野県黒姫にあるアフアの森に被災地の子供達を招待する「心の森プロジェクト」を実施し、現在、このつながりを深め、東松島市で被災した学校を再建するプロジェクトにご協力頂いております。このプロジェクトは、豊かな森の知恵を学び、森と生きる力を養う「森の学校」を東松島市に実現しようとするもので、C.W.ニコル氏と財団はその実現に向けて様々な支援を行っております。

東日本大震災から1年が経過しましたが、被災地の多くは、現在も困難な生活を強いられています。東北再生は、20世紀の文明観を超えた新たな日本を再構築する大きなチャレンジです。アース



▲森の学校のイメージ：
資料提供：C.W.ニコル・アフアの森財団

(かざみしょうぞう)

1960年生まれ。博士(工学)、技術士(都市及び地方計画)。日本大学大学院修了後、都市開発事業やまちづくりの調査研究に携わる。さらに英国ロンドン大学大学院、東京工業大学大学院で学び、2008年4月より現職。



▲小澤教授(右)と関野さんによる「アメージンググレイス」が献奏された

昨年6月に慰霊植樹した河津桜の前で行われた追悼式は、亡くなった学生の同級生有志による学歌の献唱で始まり、学長の式辞の後、地震発生時刻の午後2時46分には全員で黙とうがささげられました。その後、後援会の沖野佳秀会長から被災者に対する追悼の辞が述べられ、学生会会長の成田康宏君が、宮城大生一人一人が協力し、宮城の復興に貢献していきたいと力強く宣誓しました。式の最後には、事業構想学部の小澤尚教授と事務部の関野純子さんによる「アメージンググレイス」の献奏や、亡くなった学生と親交が深かった舞踊サークル「娘すずめ」のメンバーによる「すずめ踊り」が献舞されました。

▲宮城の復興を誓う
学生代表 成田康宏君

ますね。
西垣 ええ、それと先ほど「情報提供の早急な改善」とお話ししましたが、新年度から仙台の中心街のビル(アエル)に、サテライトキャンパスをオープンさせることになりました。オープンキャンパスや出前講座(*3)、アカデミックインターンシップ(*4)の実施など、常に大学の情報を発信し、高校生に大学の理解を深めてもらいたいと考えています。また、「開かれた大学」とは単なる露出ではなく、地域の要請や要望にも応えていかなければなりません。大学のホームページをリニューアルして随時外部からの要請を受け入れる体制を整えたいと考えています。



▲沖野佳秀後援会長

沖野 学長の素晴らしい将来構想をお聞かせいたいで、親として大変うれしいです。我々も常に向学心を持ち、宮城大にふさわしいアカデミックな活動を目指したいと思えます。今日はどうもありがとうございました。ごさいます。

- *1 海外での就業体験制度
- *2 学生による企業
- *3 高校へ出向いて行う講座
- *4 高校生を対象にした大学教育体験制度

のが私の任務です。学生にとって魅力ある大学、地域からも「宮城大学があつて良かった」と思ってもらえなければ、少子高齢化時代を生き残る大学にはなれません。

魅大

33企業を招き、学外で開催

事業構想学部・食産業界学部合同企業説明会が1月25日に情報・産業プラザ(アエル)で開催されました。後援会の支援をいただき、アエルでの開催も3回目を迎え、宮城大学の就職支援として欠かせない行事となつてまいりました。今年度は33社の企業に参加をいただき、122人の学生が参加しました。多くの学生が3社以上の企業ブースを回り終了間際まで、積極的に説明を聞き質問を行っていました。そろそろ内定が出たとの話も聞こえてきますが、まだま



東日本大震災一周年追悼式 3・11の教訓を胸に刻み 宮城の復興を誓う

東日本大震災により亡くなられた本学学生及び学生・教職員の家族・親族の慰霊と、宮城の復興を誓い、震災の経験と教訓を忘れることなく後世に伝えていくための追悼式が、1周年を前にした9日、大和キャンパスで行われました。

だ就職活動は続き、さらに卒業に向けての研究等も佳境を迎えます。御家族の皆さまの精神的支えが特に必要な時期になりますので、学生の支援方よろしくお願ひします。1年間を通じて、後援会の就職支援に厚く感謝を申し上げます。(学務課 菅原隆之)

式には多くの父母も参加し、みなそれぞれ思いで人生の区切りを迎える日となりまし行われ、友との再会を喜びました。

県美術館で初開催 72人 作品披露



▲デザイン情報コースゼミの展示

2月21日(火)から26日(日)まで、宮城県美術館県民ギャラリーにおいて「宮城大学空間デザインコース・デザイン情報コース卒業研究・制作展+大学院事業構想学研究所修士制作展」を開催しました。事業構想学部デザイン情報学の学生65人と、事業構想学研究所の大学院生7人が1年間の成果を展示し、多くの方にご覧いただきました。

今年は、美術館という芸術作品の展示のためにつくられた落ち着いた雰囲気の中での発表でしたので、来場者に変好評でした。また、美術館での発表を意識してか、彩を添えた制作物が多く見受けられました。色には人の心を和ませる効果があるようです。思わず立ち止まって見入ってしまった。研究論文をパネルにして発表した大学院生や学生もいました。暮らしの中には、様々な疑問や問題点があります。よいテーマを見つけられたら、一生の宝になるでしょう。

この冬は寒さが例年になく厳しかったですが、美術館の中庭には、春を感じさせる光が降り注いでいました。
(デザイン情報学科助教 相模智雄)

教員からの一言

生物資源の高度利用



食産業学部環境システム学科の笠原です。食品の加工残渣等を含め、いわゆる生物資源の利用法について教育・研究を進めています。

最近では循環型社会という言葉が耳にすることも多いかと思いますが、食にかかわる様々な物品の流れも生産から消費、そして廃棄への一方通行ではないけません。生ごみであっても適切に処理・加工を施せば貴重な資源となりうるのです。私の研究室では、微生物がもつ優れた

食産業学部准教授 笠原 紳

能力を利用して生物資源を最大限有効に利用する方法を研究しています。食材を、食べられない部分を利用する研究、食べられない部分を利用する研究ともいえます。また、東日本大震災の津波で倒壊した燃油備蓄タンクから流出した重油の回収とバイオ処理を、大分県の専門家チームとともに進めています。

水産業は、宮城県の重要な産業ですが、その基地である漁港や養殖場も大変な被害を受けてしまいました。養殖場周辺海域の水環境保全に少しでもお役に立てばという思いのもと、作業を進めています。

■平成 23 年度 就職内定状況 平成 24 年 3 月 1 日現在

学部・学科・コース		卒業予定者数	進学希望者数	就職希望者数	内定者数	内定率	前年度同期	前年度最終
看護学部	看護学科	97	1	92	88	95.7%	97.7%	100.0%
事業構想学部	事業計画学科	108	9	86	85	98.8%	93.8%	98.8%
	情報システムコース	19	3	15	13	86.7%	84.6%	100.0%
	デザイン情報学科	46	9	36	32	88.9%	82.1%	85.2%
	デザイン情報コース	34	1	32	30	93.8%	83.3%	95.7%
食産業学部	ファームビジネス学科	45	4	34	33	97.1%	88.2%	94.1%
	フードビジネス学科	61	8	49	49	100.0%	100.0%	100.0%
	環境システム学科	31	4	26	26	100.0%	96.0%	96.0%
学部計		441	39	370	356	96.2%	92.9%	97.4%

研究科	修了予定者数	進学希望者数	就職希望者数	内定者数	内定率	前年度同期	前年度最終
看護学研究科	10	0	2	2	100.0%	0.0%	0.0%
事業構想学研究科	26	1	17	11	64.7%	68.8%	85.7%
食産業学研究科	11	0	6	6	100.0%	100.0%	100.0%
大学院計	47	1	25	19	76.0%	73.7%	88.2%

※進学・就職希望者以外の者は社会人学生、資格・試験準備、留学検討中等の学生

平成 23 年度卒業記念事業を行いました。

- 卒業生へ記念品贈呈：パーカー万年筆、校章ピンバッジ
- 大学への記念品贈呈：大和キャンパス 池清掃用具一式（ボート、リヤカー 胴長）
太白キャンパス ワンタッチ式テント 2張
- 謝恩会費用の一部を助成しました

だ今年の卒業生が、ともに笑顔で巣立って行きました。震災から一年、復興への道のりは長く、課題は多く残されていますが、こうして震災を乗り越えたいと社会へ巣立って行く若者に、託したいと思います。

(S・I)



編集後記

大学では今年二つの卒業式がありました。社会人として歩み始めていた昨春の卒業生と、混乱した社会で就職活動に挑んだ卒業生が、ともに笑顔で巣立って行きました。震災から一年、復興への道のりは長く、課題は多く残されていますが、こうして震災を乗り越えたいと社会へ巣立って行く若者に、託したいと思います。

平成 24 年度後援会総会を
開催します

平成 24 年 4 月 4 日(水) 午後 3 時 10 分より大和キャンパス講堂において、新会員を迎え、平成 24 年度後援会総会を開催致します。議題は平成 23 年度の事業報告・決算報告と平成 24 年度の事業計画・予算案などです。御出席くださいますようお願い致します。

TEL : 022 (377) 8381 FAX : 022 (377) 8282 E-mail : kouenkai@mvu.ac.jp U.R.L : http://www.mvu.ac.jp/~kouenkai/